

2012年6月6日

ブライダル総研 夫婦関係調査2012

昨年より夫婦関係「満足」増えるも、会話量に感じ方のズレ。
震災を経て意識が「家族」に向かう夫、「自分」に向かう妻。

～ 将来の旅行計画、老後の趣味や生活を語って、夫婦関係向上を～

株式会社リクルート(本社:東京都千代田区 代表取締役社長 兼 CEO: 峰岸真澄)が運営するブライダル総研では、夫婦関係の状況について詳細に把握するために、全国の20代から60代の既婚者2,000人を対象に『夫婦関係調査』を実施しました。ここに調査結果の要旨をご報告いたします。
(リクルート ブライダル総研 鈴木直樹)

【主な調査結果と見解】

< 夫婦関係の満足状況と昨年からの変化 >

P3-4 既婚者全体の73.1%が夫婦関係に満足。東名阪では昨年より夫4.4pt、妻1.6ptアップ。
「夫婦関係に満足」と答えた割合は昨年よりも3.0pt増え、特に「非常に満足」が8.5ptも上昇しました。女性よりも男性の方がアップ度が大きく、「この先離婚することはない」「配偶者のことを愛している」は、男性が「そう思う」割合が増える一方で女性側は減少するなど、男女間の気持ちの動きに違いが見られます。

P5 「会話・コミュニケーション」での感じ方に大きな男女ギャップが。
「よく会話する」「将来の夢や計画について話し合っている」「コミュニケーションは十分にとれている」など、夫婦のコミュニケーションに関する項目は、昨年よりも「そう思う」男性が増えたのに対して、女性はずべての項目について減少しました。社会環境が大きく変化する中で、夫はコミュニケーション量が増えたと感じているものの、妻が期待するほどではなかったようです。互いが期待する会話量や内容について、今一度夫婦間ですり合わせをしてみてはいかがでしょうか。

< 東日本大震災がもたらした夫婦の気持ちの変化とは >

P6 震災をきっかけに、意識が「家族」に向かう夫、「自分」に向かう妻。
東日本大震災という未曾有の出来事の中で、守り・守られる夫婦関係が見えるとともに、「子供を作ろうと思った」「家族での旅行の回数が増えた」など家族に関わる想いの変化は男性の方が大きく、「やりたいことをやっておこうと思った」「疎遠になっていた友人と連絡を取るようになった」など、自分の生き方の変化は女性の方に大きく起こっていました。従来の意識のありかたの反動ともいえるかもしれません。

< 将来の生活や計画についての会話 >

P7 子供、マイホーム、キャリア…将来の会話の多い新婚時代。「旅行」はいつも共通の話題に。
結婚1～3年の新婚時代は8割以上が将来の子供や家、キャリアについての会話をしますが次第に減っていきます。子供の独立後や老後の話を6割の夫婦がし始めるのは結婚21年目から。お墓や葬式、相続についての会話が増えるのは結婚31年目以降です。介護については結婚年数を経てもそれほど増えず5割を超えません。一方で「大きな国内旅行の計画」はどの時期でも5割以上の夫婦が話しており、共通の話題となっています。

P8 夫婦満足の高い秘訣は「旅行」「老後の生活や趣味」について話すこと!?
将来の夢や計画を語り合い、夫婦のコミュニケーション量のUPを!
夫婦満足の高い夫婦はそうでない夫婦よりも、「旅行」や「老後(定年後)の生活や趣味」について会話をしている割合がとて高いことがわかりました。現実的な話だけでなく、将来の「夫婦で楽しく過ごす時間」について語り合うことで、今の夫婦の関係をより良いものにすることができるのではないのでしょうか。

出版・印刷物へデータを転載する際には、「夫婦関係調査2012 リクルートブライダル総研調べ」と明記いただけますようお願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ先】

https://www.recruit.jp/form/inquiry_press.php

【調査概要】

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 2012年2月16日(木)～2月21日(火)

【調査対象】 全国の「既婚者かつ本人初婚」の20代～60代の男女

【集計サンプル数】 計2,000件

東名阪：1,000(20代男女、30代男女、40代男女、50代男女 各100 / 60代前半男女、60代後半男女 各50)

「東名阪」とは、首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)、東海(愛知・岐阜・三重)、関西(大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・和歌山)を示します。

東名阪以外：1,000(20代男女、30代男女、40代男女、50代男女 各100 / 60代前半男女、60代後半男女 各50)

本文中で使用している時系列のデータは、それぞれ過去に実施した同調査のデータです。調査概要は以下の通りです。

< 前回調査「夫婦関係調査2011」>

【調査期間】 2011年3月24日(木)～3月29日(火)

【調査対象】 首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)、東海(愛知・岐阜・三重)、関西(大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・和歌山)在住で、「既婚者かつ本人初婚」の20代～60代の男女

【集計サンプル数】 計1,000件

20代男女、30代男女、40代男女、50代男女 各100 / 60代前半男女、60代後半男女 各50

【回答者のプロフィール】

既婚者(本人初婚)

		合計	北海道	東北	北関東	北陸・ 甲信越・ 静岡	首都圏	東海	関西	中国	四国	九州・ 沖縄
男性 (夫本人)	【男性】合計	1000	72	71	67	94	265	95	140	71	30	95
	20～29歳	200	16	13	16	10	50	23	27	16	7	22
	30～39歳	200	14	15	11	18	43	23	34	11	4	27
	40～49歳	200	19	13	11	15	53	19	28	19	6	17
	50～59歳	200	11	16	9	33	58	20	22	10	7	14
	60～69歳	200	12	14	20	18	61	10	29	15	6	15
女性 (妻本人)	【女性】合計	1000	81	70	44	88	269	83	148	67	31	119
	20～29歳	200	17	10	7	20	54	13	33	10	6	30
	30～39歳	200	16	13	8	17	48	23	29	20	8	18
	40～49歳	200	13	14	11	16	50	17	33	10	5	31
	50～59歳	200	16	19	9	20	60	13	27	11	8	17
	60～69歳	200	19	14	9	15	57	17	26	16	4	23

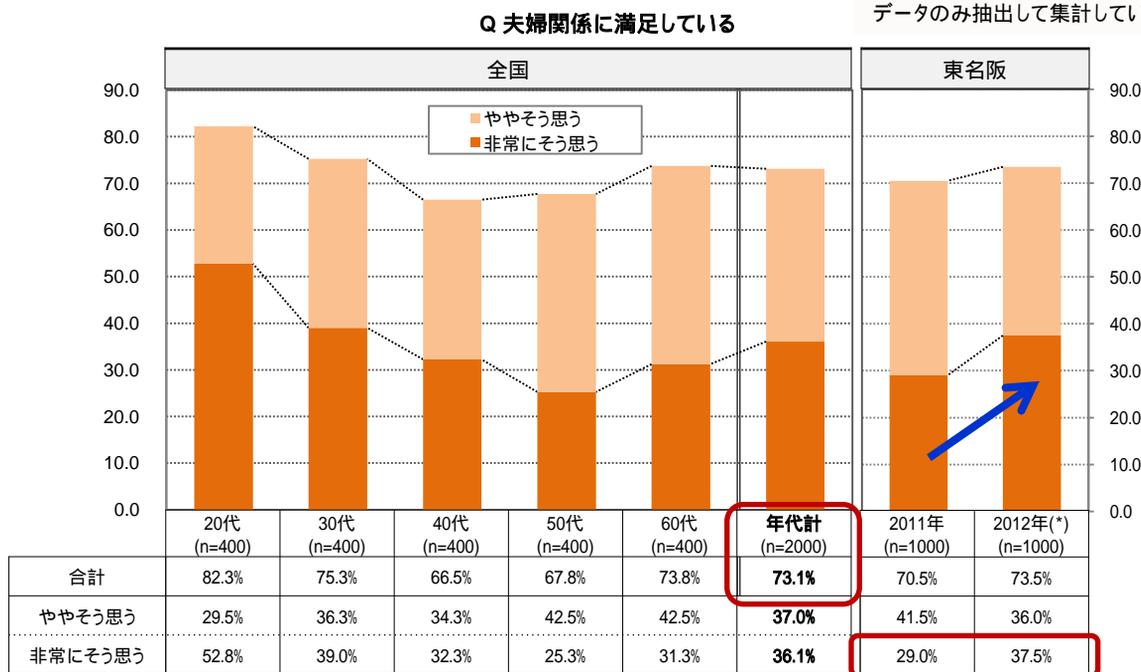
「夫婦関係に満足」と答えた既婚者は、全体で**73.1%**（「非常にそう思う」「ややそう思う」を合計した割合）。昨年調査と比較すると3.0pt増加し、特に「ややそう思う」が-5.5ptに対して「非常にそう思う」と答えた人が**+8.5pt**と大きな伸びを示しました。

男女別では男性が**76.8%**、女性が**69.4%**と、昨年調査に引き続き、妻よりも夫のほうが満足している割合が高い結果となりました。

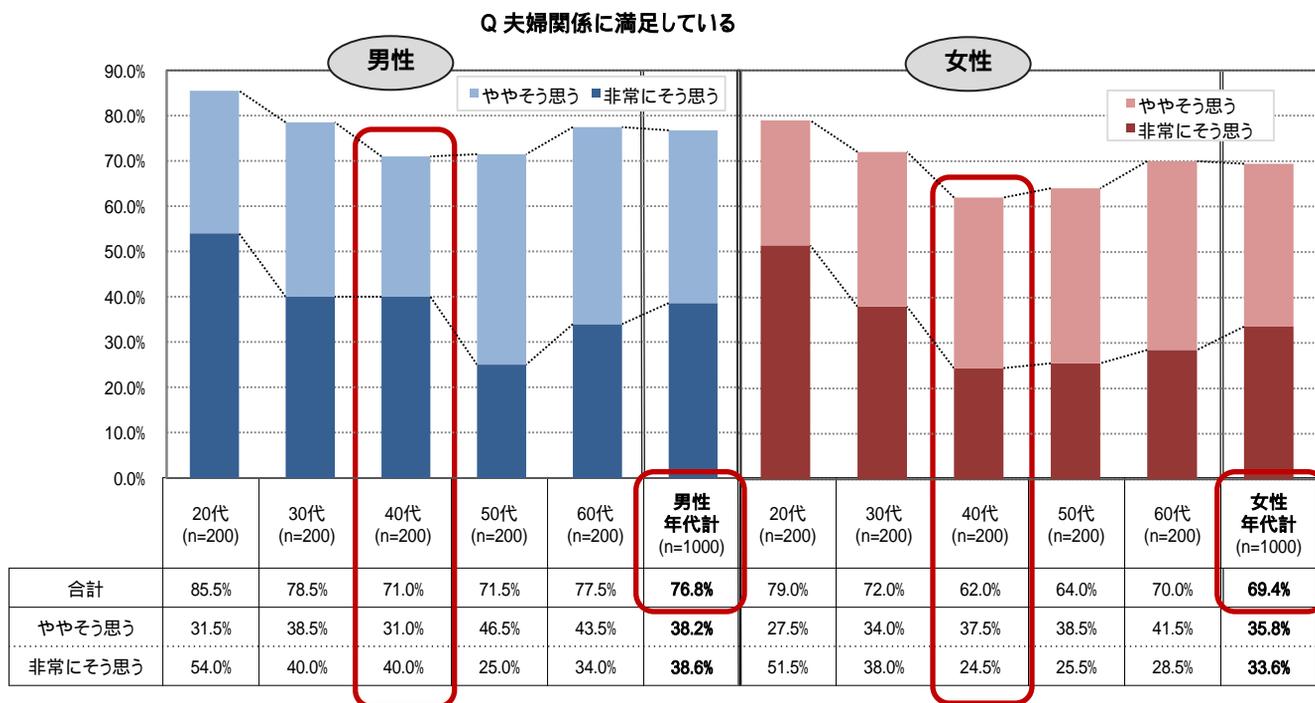
性・年代別では、最も満足している割合が高いのは男女とも「20代」（男性：85.5%、女性：79.0%）、反対に最も低いのは男女とも「40代」（男性：71.0%、女性：62.0%）でした。

夫婦関係の満足度 / 年代別（全国、東名阪）

（*）前回2011年調査は東名阪エリアを対象としたため、比較のため2012年調査より東名阪データのみ抽出して集計しています。



夫婦関係の満足度 / 性・年代別（全国）



ブライダル総研

【昨年からの変化】夫婦の気持ち

「夫婦の関係」は、前回2011年の調査と比べてどう変化しているでしょうか。

男性は「夫婦関係に満足している」(+4.4pt)、「大切な、かけがえのない絆がある」(+3.8pt)、「自分を犠牲にしても配偶者を幸せにしたい」(+3.8pt)など、多くの項目で「そう思う」と答えた割合が増加しました。

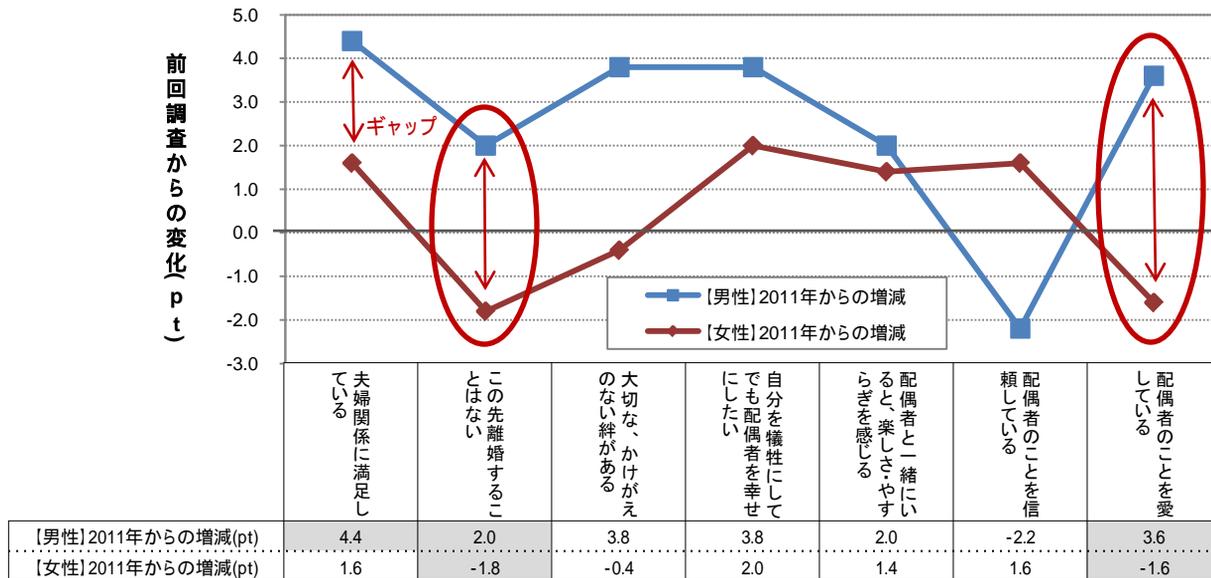
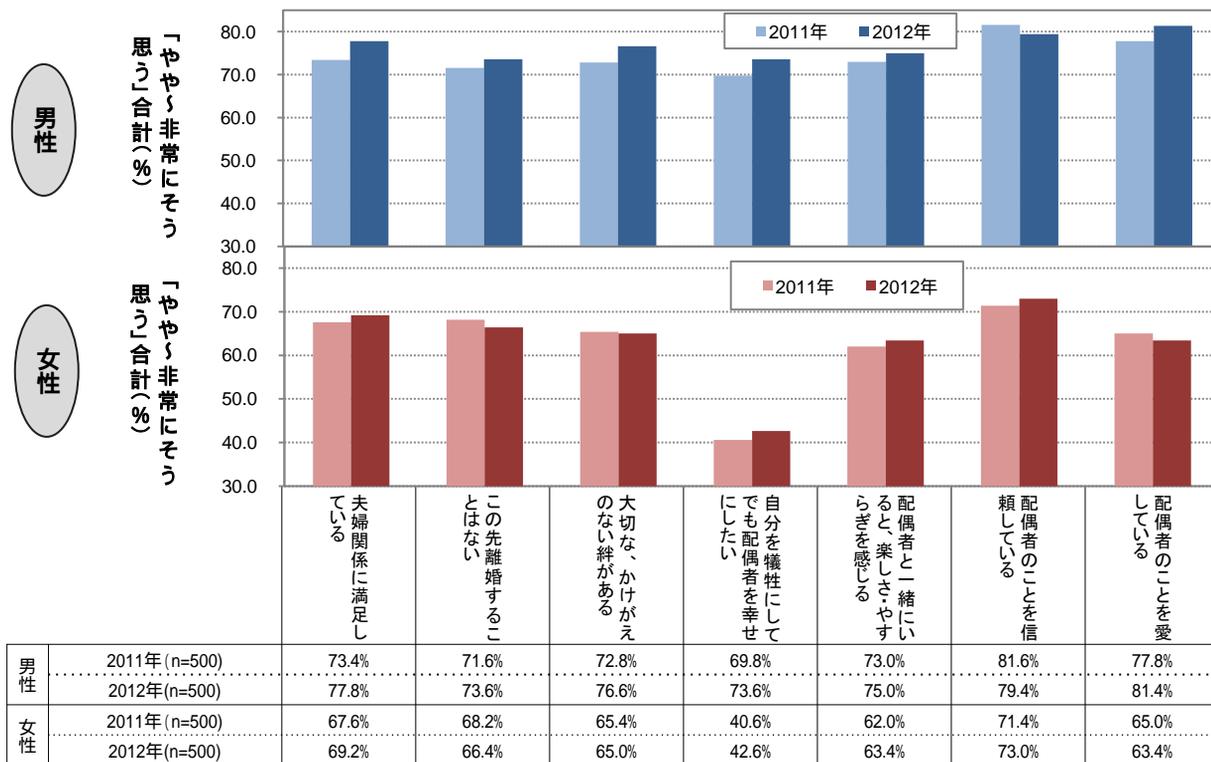
女性は「自分を犠牲にしても配偶者を幸せにしたい」(+2.0pt)、「夫婦関係に満足している」(+1.6pt)、「配偶者のことを信頼している」(+1.6pt)は増加する一方で、「この先離婚することはない」(-1.8pt)、「配偶者のことを愛している」(-1.6pt)は減少する結果となりました。

「この先離婚することはない」「配偶者のことを愛している」では、夫は「そう思う」が増加しているのに対して妻は減少するなど、全体として、夫と妻の気持ちの動きに違いが見られます。

夫婦の関係：昨年調査との比較 / 性別 (東名阪)

(注) 前回2011年調査は東名阪エリアを対象としたため、以下は2012年調査より東名阪エリアデータのみ抽出して集計しています。

各質問項目への回答、「やや～非常にそう思う」の割合合計

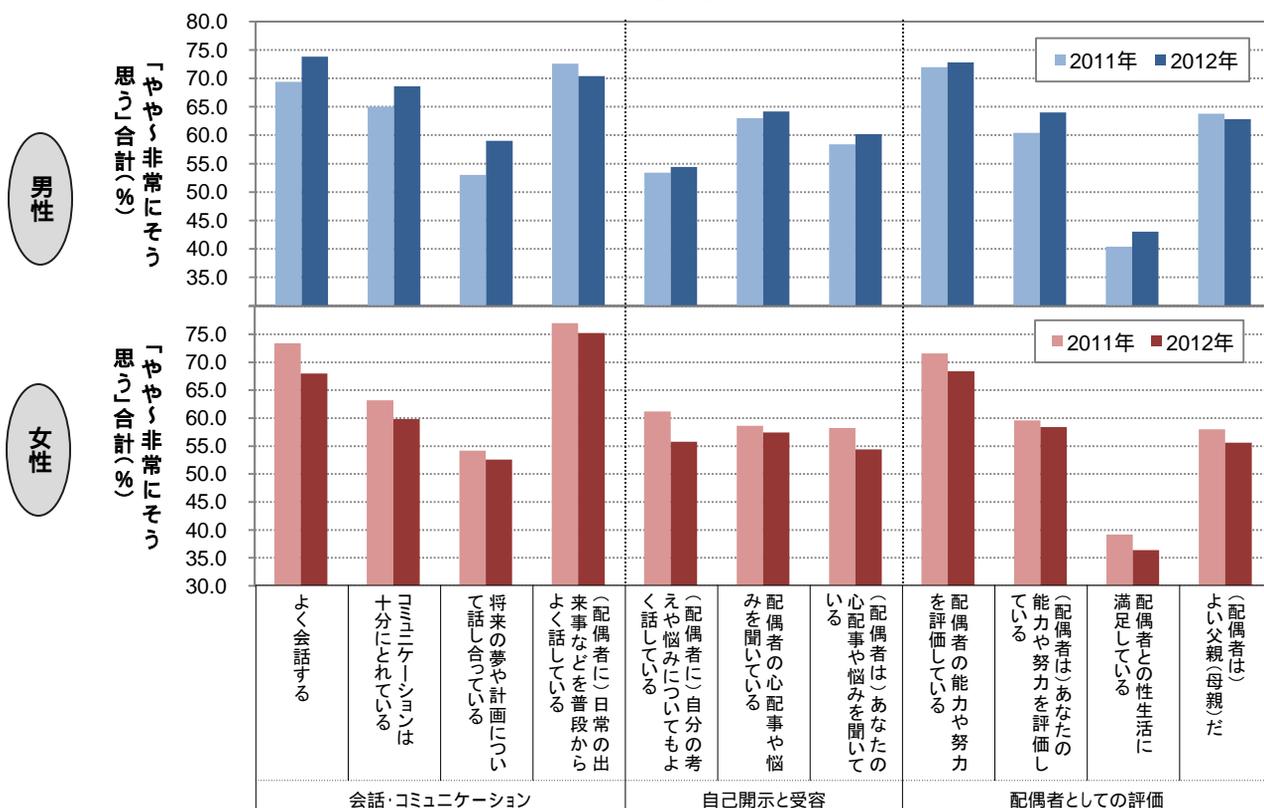


では、「会話・コミュニケーション」「自己開示と受容」「配偶者としての評価」での変化はどうでしょうか。
 男性は「将来の夢や計画について話し合っている」(+6.0pt)、「よく会話する」(+4.4pt)など、ほとんどの項目について、昨年調査よりも「そう思う」と答えた割合が増加しました。
 反対に、女性は「よく会話する」(-5.4pt)、「自分の考えや悩みについてもよく話している」(-5.4pt)をはじめ、すべての項目について昨年調査よりも「そう思う」と答えた割合が減少しました。
 特に「会話・コミュニケーション」について、男女間の意識のズレが大きく見られます。社会環境が大きく変化する中で、夫はコミュニケーション量が増加したと感じているが、妻が期待するほどではなかったということかもしれません。

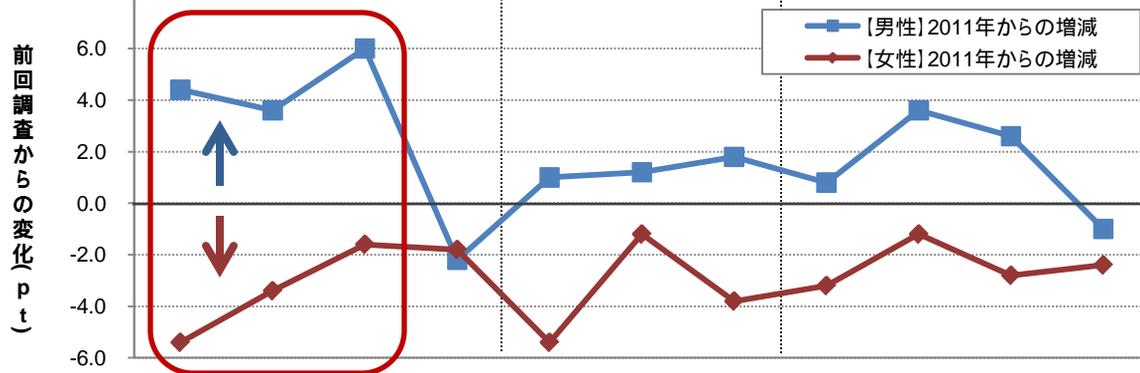
夫婦の関係：昨年調査との比較 / 性別 (東名阪)

(注) 前回2011年調査は東名阪エリアを対象としたため、以下は2012年調査より東名阪エリアデータのみ抽出して集計しています。

各質問項目への回答、「やや～非常にそう思う」の割合合計



	年	会話・コミュニケーション			自己開示と受容			配偶者としての評価				
		2011年(n=500)	2012年(n=500)	増減(pt)	2011年(n=500)	2012年(n=500)	増減(pt)	2011年(n=500)	2012年(n=500)	増減(pt)	2011年(n=500)	2012年(n=500)
男性	2011年(n=500)	69.4%	65.0%	53.0%	72.6%	53.4%	63.0%	58.4%	72.0%	60.4%	40.4%	63.8%
男性	2012年(n=500)	73.8%	68.6%	59.0%	70.4%	54.4%	64.2%	60.2%	72.8%	64.0%	43.0%	62.8%
男性	2011年からの増減(pt)	4.4	3.6	6.0	-2.2	1.0	1.2	1.8	0.8	3.6	2.6	-1.0
女性	2011年(n=500)	73.4%	63.2%	54.2%	77.0%	61.2%	58.6%	58.2%	71.6%	59.6%	39.2%	58.0%
女性	2012年(n=500)	68.0%	59.8%	52.6%	75.2%	55.8%	57.4%	54.4%	68.4%	58.4%	36.4%	55.6%
女性	2011年からの増減(pt)	-5.4	-3.4	-1.6	-1.8	-5.4	-1.2	-3.8	-3.2	-1.2	-2.8	-2.4



東日本大震災という未曾有の出来事は、夫婦の気持ちにどのような変化をもたらしたのでしょうか。
 「配偶者を何があっても守りたいと思った」に「そう思う」と答えたのは、男性が女性よりも17.4pt多く()、反対に「独身ではなく、結婚してよかったと思った」「配偶者のことを頼れる人だと思った」は女性の方が多く()結果となりました。夫婦で助け合う姿が浮かびます。

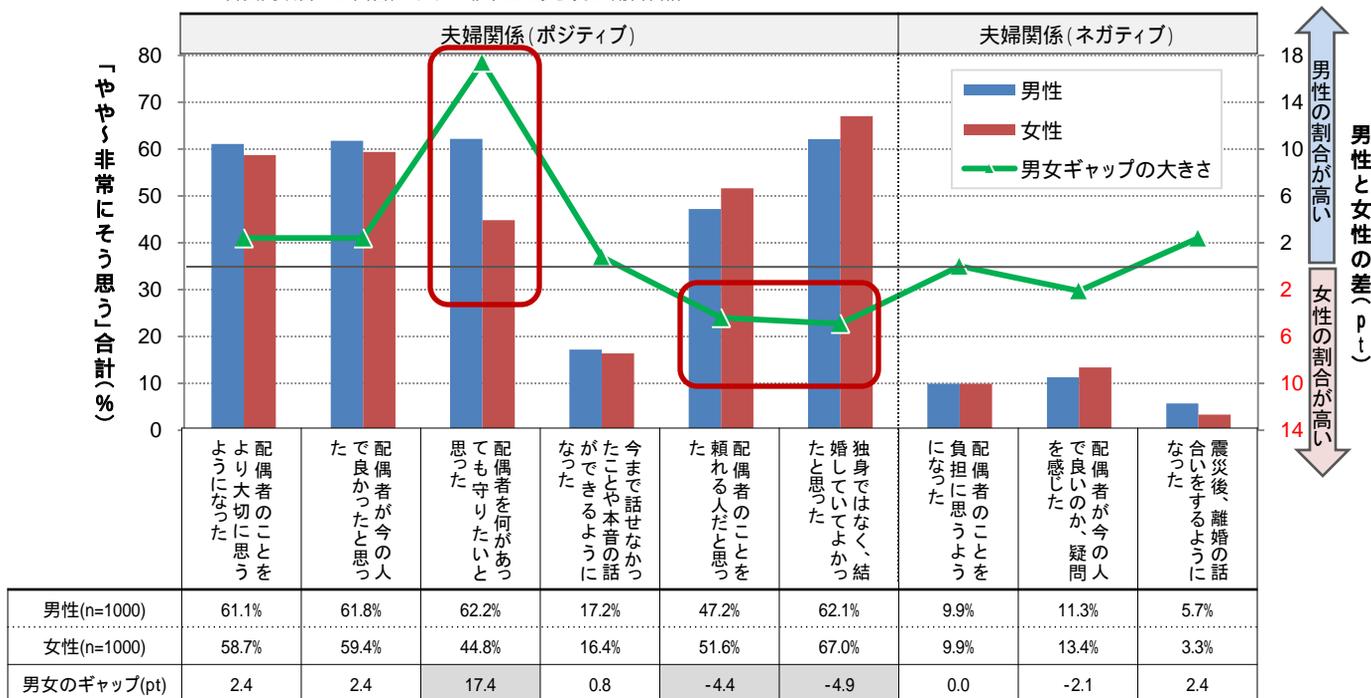
「家族での旅行の回数が増えた」「子供を作ろうと思った」と答えたのは若干ながら男性が多く()、「やりたいことをやっておこうと思った」「物欲が無くなった」「疎遠になっていた友人と連絡を取るようになった」など、意識が自分に向き、生き方・価値観の変化が大きかったのは女性()という結果になりました。

従来からの反動からか、震災をきっかけに、男性は「家族のため」に、女性は「自分のため」に生きるという方向に意識が強まったように見えます。

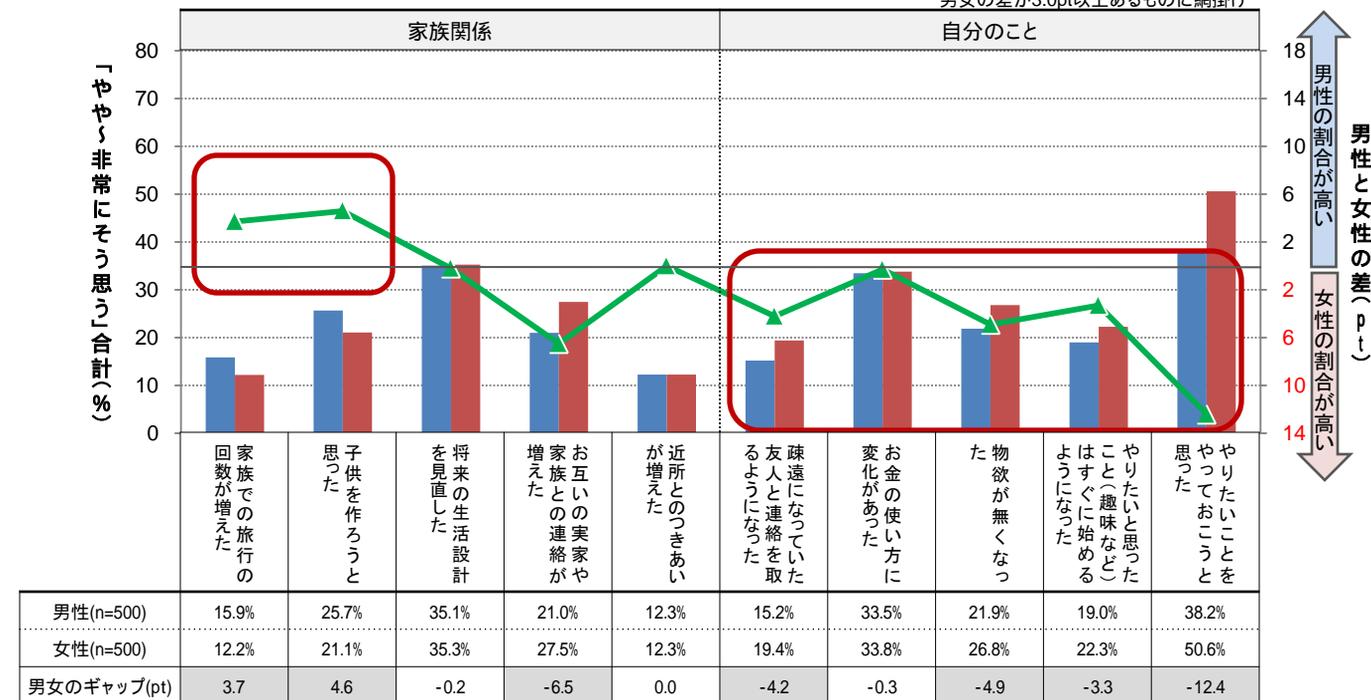
夫婦の関係：東日本大震災前後での気持ちの変化 / 性別 (全国)

Q 東日本大震災前後の、気持ちや行動の変化

各質問項目への回答、「やや～非常にそう思う」の割合合計



男女の差が3.0pt以上あるものに網掛け



「将来の生活や計画」について、夫婦は何をどのくらい話しているものなのでしょうか。

「子供の計画」「子供の教育や将来」「引越しやマイホームの購入」「仕事・キャリア」に関する会話は、結婚1~3年の夫婦で非常に多く8割以上が話していますが、結婚年数を経るとともに減少していきます。

「子供の結婚・独立後の自分たちの生活」「老後(定年後)の生活資金」「老後(定年後)の生活や趣味」などの夫婦の将来の生活については、結婚21~30年になると6割以上が会話をするようになります。

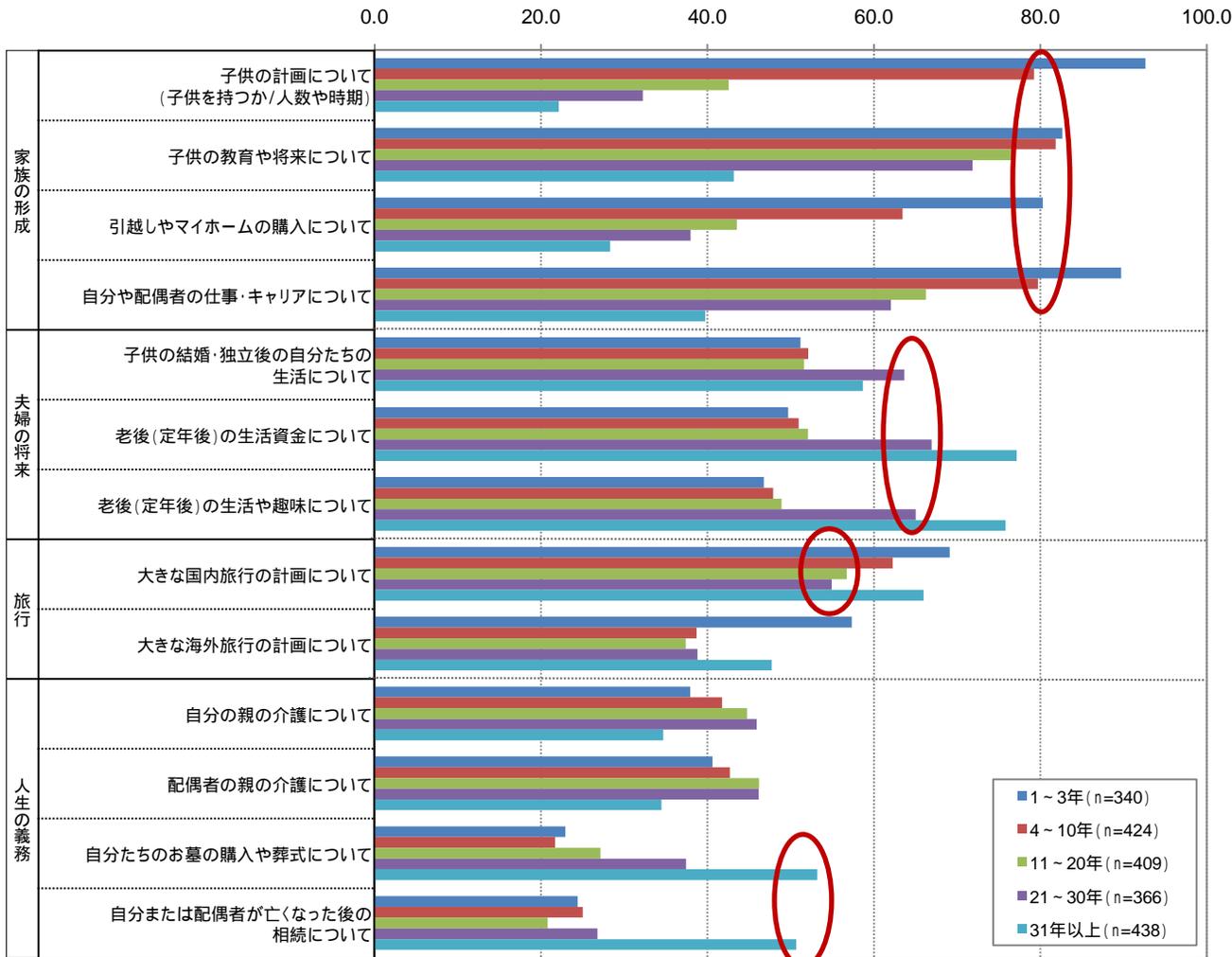
旅行、特に「国内旅行について」は、結婚年数を問わず5割以上の夫婦によって会話されています。

「親の介護」については結婚年数による差がそれほど無く、会話をしているのは4割前後という結果になりました。

「お墓の購入」「相続」については、結婚31年以上になって初めて5割を超えます。

将来の生活や計画についての会話 / 結婚年数別(全国)

各質問項目への回答、「少し~よく話している」の割合合計(%)



結婚年数	子供の計画について(子供を持つか/人数や時期)	家族の形成			夫婦の将来			旅行		人生の義務			
		子供の教育や将来について	引越しやマイホームの購入について	自分や配偶者の仕事・キャリアについて	子供の結婚・独立後の自分たちの生活について	老後(定年後)の生活資金について	老後(定年後)の生活や趣味について	大きな国内旅行の計画について	大きな海外旅行の計画について	自分の親の介護について	配偶者の親の介護について	自分たちのお墓の購入や葬式について	自分または配偶者が亡くなった後の相続について
1~3年(n=340)	92.6%	82.6%	80.3%	89.7%	51.2%	49.7%	46.8%	69.1%	57.4%	37.9%	40.6%	22.9%	24.4%
4~10年(n=424)	79.2%	81.8%	63.4%	79.7%	52.1%	50.9%	47.9%	62.3%	38.7%	41.7%	42.7%	21.7%	25.0%
11~20年(n=409)	42.5%	77.0%	43.5%	66.3%	51.6%	52.1%	48.9%	56.7%	37.4%	44.7%	46.2%	27.1%	20.8%
21~30年(n=366)	32.2%	71.9%	38.0%	62.0%	63.7%	66.9%	65.0%	54.9%	38.8%	45.9%	46.2%	37.4%	26.8%
31年以上(n=438)	22.1%	43.2%	28.3%	39.7%	58.7%	77.2%	75.8%	66.0%	47.7%	34.7%	34.5%	53.2%	50.7%
全体(n=1977)	52.6%	70.6%	49.7%	66.5%	55.4%	59.7%	57.3%	61.8%	43.7%	40.9%	41.9%	32.9%	30.0%

結婚年数による会話の話題やテーマの特徴に網掛け

では、夫婦関係満足と関連性の強い「将来についての会話」とは何でしょうか。

夫婦関係に満足している人とそうでない人の差が特に大きく見られたのは、男女とも、「国内旅行」や「海外旅行」などの将来の旅行計画についてと、老後・定年後の「生活や趣味」「生活資金」という夫婦の将来についての会話という結果になりました。

たとえ今がどのような状況でも、将来の楽しい夢や計画が二人の間で共有できていることが、夫婦関係を良くする秘訣なのかもしれません。自由回答でも「定年退職したら二人で、新婚旅行に行ったハワイにもう一度行く約束をしている(結婚19年目の女性/やや満足)」「子供が独り立ちしたら日本地図を制覇したい(結婚16年目の男性/非常に満足)」など、旅行に関する将来の会話が目立ちました。

「将来についての会話」と「夫婦関係満足」/男女別(全国)

(注)「[夫婦関係]満足」・・・「夫婦関係に満足している」に対して、「やや～非常にそう思う」と回答した群
「[夫婦関係]非・満足」・・・「夫婦関係に満足している」に対して、「どちらともいえない～まったくそう思わない」と回答した群

各質問項目への回答、「少し～よく話している」の割合合計

